

## 佳作

丸森小学校 2年 阿部 柊晟

表題「三十回読んだ大冒険」

書籍名「トム・ソーヤーの冒険」

ぼくは、二年生になってから本を読むことが大好きになりました。なので、しゅくだいで読書かんそう文がでたときにやってみようという気もちになりました。そこで、おばあちゃんに買ってもらって三十回読んだ「トム・ソーヤーの冒険」のかんそうを書こうと思いました。「トム・ソーヤーの冒険」には、トム・ソーヤーという人が出てきます。この人は、自由きままな人です。トムは、しん友のハックとジョーといっしょにかいぞくになるうと大人たちにないしよで冒険にでます。そして、イカダで川をくだったり、たき火をしたり、イカダのほでテントを作ったり、りょうりをして冒険をするお話です。

この本で気になったところは、トムには本当のおかあ

さんがいないというところです。りゆうは、トムのおかあさんがなぜなくなってしまったのが気になりました。トムは、本当のおかあさんがいないのにさみしいようすもなく、しん友たちと元気にたのしくあそんでいきます。ぼくは、そんなトムを見て「すごいな」という気もちになりました。ほかに、トムたちが何さいなのかが気になりました。なぜなら、本の中の絵を見たときに十さいくらいだと思い、びっくりしたからです。ぼくにはむずかしいけれど、いつかトムたちのような冒険にでてみたいです。

この本を読みおわって、ぼくはトムたちが思いつくたくさんのアイデアにおどろきました。なぜなら、ぼくなら思いつかないからです。

それから、もう一つ気になることがありました。それは、三人がたばこをすって体ちようをくずしていたのでしんばいになりました。

さいごに、ぼくは本を読みおわった後にものがたりのつづきを考えることが好きなので、トムたちがその後どうなったのかがしりたくなりました。